2027年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月12日

上場会社名　　株式会社ジェイテックコーポレーション　　上場取引所　東
コード番号　　3446　　ＵＲＬ　https://www.j-tec.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）津村　尚史
問合せ先責任者　（役職名）取締役管理部長　　（氏名）日谷　哲也　　ＴＥＬ　072（655）2785

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第１四半期の連結業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期第１四半期	158	△32.1	△215	－	△220	－	△156	－
2026年６月期第１四半期	232	△0.1	△172	－	△168	－	△120	－

（注）包括利益　2027年３月期第１四半期　△156百万円（－%）　2026年６月期第１四半期　△120百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期第１四半期	△26.46	－
2026年６月期第１四半期	△20.48	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期第１四半期	3,507	2,696	76.9
2026年６月期	3,610	2,852	79.0

（参考）自己資本　2027年３月期第１四半期　2,696百万円　2026年６月期　2,852百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年３月期	－				
2027年３月期（予想）		0.00	－	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年７月１日～2027年３月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期（累計）	866	－	△196	－	△198	－	△142	－	△24.21
通期	1,962	－	74	－	106	－	60	－	10.22

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

決算期変更に伴い、当連結会計年度は９ヶ月決算となっているため、対前年増減率は記載しておりません。

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
　①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
　②　①以外の会計方針の変更　：無
　③　会計上の見積りの変更　：無
　④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期１Ｑ	5,905,500株	2026年６月期	5,905,500株
②　期末自己株式数	2027年３月期１Ｑ	985株	2026年６月期	985株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年３月期１Ｑ	5,904,515株	2026年６月期１Ｑ	5,889,630株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… 9
（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（セグメント情報等の注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11
（収益認識関係に関する注記） …… 11

１．経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（１）当四半期の経営成績の概況

当第１四半期連結累計期間における世界経済は、AI・テクノロジー関連の需要に支えられ全体として緩やかな成長を維持した一方、中東情勢の緊迫化による原材料価格の上昇を受け、米国では歴史的な高金利水準となり、欧州では製造業の競争力が低下するなど、地政学リスクの影響によって不確実性が高まっております。国内経済においては、内需と外需の双方が堅調さを維持し、実質GDPは緩やかな回復の動きが続いたものの、中東情勢の緊迫化に伴う物流混乱、輸入原材料価格の上昇などが下押し圧力となり、成長のペースは鈍化いたしました。

このような経済環境のもと当社グループは、オプティカル事業、ライフサイエンス・機器開発事業及びその他事業（電子科学株式会社を含む）という独自の技術を利用した３つの事業によって、高品質な製品提供と研究開発活動の強化に取り組み、経営基盤拡充と企業価値向上に努めてまいりました。

この結果、当第１四半期連結累計期間における経営成績は、売上高158,009千円（前年同四半期比32.1％減）、営業損失215,373千円（前年同四半期は172,127千円の損失）、経常損失220,455千円（前年同四半期は168,880千円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は156,210千円（前年同四半期は120,642千円の損失）となりました。

セグメントの経営成績は、次の通りであります。

（オプティカル事業）

当第１四半期連結累計期間は、国内市場ではSPring-8、アジア市場ではSHINE（中国・上海）、TPS（台湾）、米州市場ではLCLS（アメリカ）、SIRIUS（ブラジル）における売上が中心となりました。前年度からの期ズレ案件の一部が検収に至ったものの、出荷済み案件の一部において顧客の都合によって検収スケジュールに遅れが生じたため売上計上に至らず、結果として前年同四半期を下回る売上高の実績となりましたが、引続き良好な受注環境は維持・継続しております。利益面につきましては、前年同四半期比で売上が減少したことに加えて、販管費は横ばいであったためセグメント損失を計上するに至りました。

世界各国における施設の新設やアップグレードが進む中、引続き各国のユーザーにおいては、これまでにない高精度なミラーの需要が高まっており、オンリーワンの技術を追求する当社の経営理念に基づき、これまで以上に積極的な研究開発と生産能力の向上に努めてまいります。

営業活動につきましては、国内外の主たる放射光分野の学会・展示会への参加を通じて、当社の研究・開発成果の報告に加え、光学全般を対象にした展示会においても当社の超精密加工・計測技術のアピールを継続的に続けております。当第１四半期連結累計期間におきましては、米国で開催された「SPIE Optics+Photonics 2026」及びブラジルで開催された「XRM 2026」に参加し、世界各国の研究者と対面で情報共有、意見交換、商談する機会を得るなど積極的な営業活動に努めてまいりました。

この結果、売上高は119,407千円（前年同四半期比37.1％減）、セグメント損失は7,735千円（前年同四半期は44,500千円の利益）となりました。

（ライフサイエンス・機器開発事業）

当第１四半期連結累計期間は、ライフサイエンス事業において自動細胞培養装置に関連する消耗品や装置の保守点検料等ストックビジネスを中心とした販売実績があり、機器開発事業においてはダイヤモンド基板の受託加工の実績がございましたが、前年同四半期を下回る売上高の実績となりました。利益におきましても研究開発費を中心とした販管費が増加し、利益を圧迫する結果となりました。

昨年度に引続き、ライフサイエンス事業については、創薬の研究開発現場の労働環境改善や動物実験禁止などの世界的潮流が自動細胞培養装置にとって追い風の環境となっており、汎用型の自動細胞培養装置や超大型・全自動の細胞培養システムの受注拡大に注力してまいります。

機器開発事業における重点新規事業分野として、各半導体材料を主たる対象としたナノ表面加工技術であるプラズマ化学気相加工法（PCVM）、プラズマ援用研磨法（PAP）、触媒表面基準エッチング法（CARE）、電気化学機械研磨法（ECMP）による表面加工装置の開発、製品化、販売活動を引き続き推進しております。当社は新たな事業の柱として独自の表面加工・研磨技術及び装置の開発推進とその実用化へと展開を図っており、半導体関連機器として複数社より引合いを受け、導入に向けたテスト評価を継続して進めております。

この結果、売上高は6,397千円（前年同四半期比46.3％減）、セグメント損失は45,347千円（前年同四半期は33,651千円の損失）となりました。

（その他事業）

その他事業である子会社の電子科学株式会社につきましては、装置メンテナンス（約14,810千円）と受託分析（約17,393千円）が安定収益源として機能し、売上高は前年同四半期比で微増となりました。また、主力の装置販売に関しましては、販売実績の確保に至りませんでしたが、前年度からの継続見込み案件の一部において成果が得られ、受注残高は順調に推移しております。利益につきましては、販管費が前年同四半期比で減少したことによってセグメント損失は縮小いたしました。

今後も持続的な成長を実現する経営基盤の強化として、生産体制の最適化とリソースの集中を図り、現在の主力装置の販売を促進するとともに、次世代市場向け新機種を将来の収益の柱として早期に育成し、安定的な収益確保に努めてまいります。

引き続き、メンテナンスと受託分析を安定した収益基盤としつつ、顧客対象を拡大する営業活動を推進している装置販売について、新製品を含めた受注獲得に努めてまいります。

この結果、売上高は32,204千円（前年同四半期比4.9％増）、セグメント損失は30,685千円（前年同四半期は43,248千円の損失）となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第１四半期連結会計期間末における流動資産は1,611,631千円となり、前連結会計年度末に比べ170,618千円減少いたしました。これは主に売掛金が502,471千円減少した一方で、現金及び預金が150,196千円、仕掛品が120,758千円、未収消費税等が32,029千円増加したことによるものです。固定資産は1,895,645千円となり、前連結会計年度末に比べ67,220千円増加いたしました。これは主に、繰延税金資産が65,459千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,507,277千円となり、前連結会計年度末に比べ103,397千円減少いたしました。

（負債）

当第１四半期連結会計期間末における流動負債は490,768千円となり、前連結会計年度末に比べ74,957千円増加いたしました。これは主に未払費用が35,002千円、未払法人税等が25,174千円減少した一方で、買掛金が23,482千円、未払金が23,448千円、契約負債が72,822千円増加したことによるものであります。固定負債は320,257千円となり、前連結会計年度末に比べ22,145千円減少いたしました。これは主に長期借入金が18,864千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は811,025千円となり、前連結会計年度末に比べ52,812千円増加いたしました。

（純資産）

当第１四半期連結会計期間末における純資産合計は2,696,251千円となり、前連結会計年度末に比べ156,210千円減少いたしました。これは利益剰余金が156,210千円減少したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第１四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ150,196千円増加し、665,073千円となりました。

当第１四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は185,134千円（前年同四半期は274,665千円の獲得）となりました。これは主に、売上債権の減少502,471千円による収入があった一方で、税金等調整前四半期純損失220,455千円、棚卸資産の増加144,687千円による支出があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は15,579千円（前年同四半期は32,186千円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得15,369千円による支出があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は22,019千円（前年同四半期は21,537千円の使用）となりました。これは主に、長期借入金の返済18,864千円による支出があったことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年８月10日の「2026年６月期　決算短信」にて公表いたしました第２四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	514,876	665,073
売掛金	641,249	138,778
商品及び製品	107,599	103,423
仕掛品	246,268	367,027
原材料及び貯蔵品	131,443	159,547
その他	141,163	178,133
貸倒引当金	△351	△351
流動資産合計	1,782,249	1,611,631
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	667,544	659,756
機械装置及び運搬具（純額）	263,914	270,418
土地	340,429	340,429
リース資産（純額）	46,078	43,128
建設仮勘定	99,646	106,460
その他（純額）	20,281	22,517
有形固定資産合計	1,437,894	1,442,711
無形固定資産		
のれん	222,510	211,914
その他	2,539	2,404
無形固定資産合計	225,050	214,319
投資その他の資産		
投資有価証券	46,200	46,200
繰延税金資産	59,463	124,923
その他	59,816	67,491
投資その他の資産合計	165,479	238,615
固定資産合計	1,828,425	1,895,645
資産合計	3,610,675	3,507,277

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年６月30日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	32,495	55,977
１年内返済予定の長期借入金	75,456	75,456
リース債務	12,623	12,623
未払法人税等	28,480	3,305
契約負債	112,380	185,202
賞与引当金	29,210	40,689
受注損失引当金	5,509	7,074
その他	119,655	110,437
流動負債合計	415,810	490,768
固定負債		
長期借入金	295,595	276,731
リース債務	36,486	33,330
役員退職慰労引当金	1,650	1,650
退職給付に係る負債	690	559
その他	7,981	7,986
固定負債合計	342,402	320,257
負債合計	758,212	811,025
純資産の部		
株主資本		
資本金	856,282	856,282
資本剰余金	816,275	816,275
利益剰余金	1,180,544	1,024,334
自己株式	△640	△640
株主資本合計	2,852,462	2,696,251
純資産合計	2,852,462	2,696,251
負債純資産合計	3,610,675	3,507,277

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	232,582	158,009
売上原価	83,085	59,189
売上総利益	149,496	98,820
販売費及び一般管理費	321,624	314,193
営業損失（△）	△172,127	△215,373
営業外収益		
受取利息	544	600
為替差益	3,104	－
受取出向料	628	－
その他	215	976
営業外収益合計	4,492	1,576
営業外費用		
支払利息	1,245	1,560
為替差損	－	5,098
営業外費用合計	1,245	6,659
経常損失（△）	△168,880	△220,455
特別利益		
固定資産売却益	1,590	－
特別利益合計	1,590	－
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純損失（△）	△167,289	△220,455
法人税、住民税及び事業税	1,205	1,214
法人税等調整額	△47,853	△65,459
法人税等合計	△46,647	△64,245
四半期純損失（△）	△120,642	△156,210
非支配株主に帰属する四半期純利益	－	－
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△120,642	△156,210

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
四半期純損失（△）	△120,642	△156,210
四半期包括利益	△120,642	△156,210
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△120,642	△156,210
非支配株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失（△）	△167,289	△220,455
減価償却費	29,079	35,338
のれん償却額	10,595	10,595
受注損失引当金の増減額（△は減少）	3,211	1,565
賞与引当金の増減額（△は減少）	11,404	11,479
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	56	△131
受取利息及び受取配当金	△544	△600
支払利息	1,245	1,560
売上債権の増減額（△は増加）	589,367	502,471
棚卸資産の増減額（△は増加）	△112,945	△144,687
前払費用の増減額（△は増加）	△29,359	△29,173
仕入債務の増減額（△は減少）	△30,236	23,482
未払費用の増減額（△は減少）	△31,496	△35,002
契約負債の増減額（△は減少）	40,856	72,822
その他	△19,923	△22,604
小計	294,021	206,661
利息及び配当金の受取額	544	600
利息の支払額	△1,227	△1,584
法人税等の支払額	△18,672	△20,542
営業活動によるキャッシュ・フロー	274,665	185,134
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△31,961	△15,369
その他	△225	△210
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,186	△15,579
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△18,864	△18,864
その他	△2,673	△3,155
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,537	△22,019
現金及び現金同等物に係る換算差額	222	2,660
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	221,164	150,196
現金及び現金同等物の期首残高	712,379	514,876
現金及び現金同等物の四半期末残高	933,544	665,073

（４）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　2025年７月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	オプティカル事業	ライフサイエンス・機器開発事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	189,969	11,917	30,694	232,582	－	232,582
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	189,969	11,917	30,694	232,582	－	232,582
セグメント損失（△）	44,500	△33,651	△43,248	△32,399	△139,728	△172,127

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額△139,728千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費等であります。

２．セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　2026年７月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	オプティカル事業	ライフサイエンス・機器開発事業	その他事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	119,407	6,397	32,204	158,009	－	158,009
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	119,407	6,397	32,204	158,009	－	158,009
セグメント損失（△）	△7,735	△45,347	△30,685	△83,768	△131,604	△215,373

（注）１．セグメント損失（△）の調整額△131,604千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費等であります。

２．セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（収益認識関係に関する注記）
顧客との契約から生じる収益を分解した情報
前第１四半期連結累計期間（自　2025年７月１日　至　2025年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	オプティカル事業	ライフサイエンス・機器開発事業	その他事業	
光学ミラー・部品類	187,426	－	－	187,426
ライフサイエンス汎用機類	－	9,627	－	9,627
機器開発	－	2,290	－	2,290
ＴＤＳ	－	－	－	－
その他	2,543	－	30,694	33,238
顧客との契約から生じる収益	189,969	11,917	30,694	232,582
外部顧客への売上高	189,969	11,917	30,694	232,582

当第１四半期連結累計期間（自　2026年７月１日　至　2026年９月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント			合計
	オプティカル事業	ライフサイエンス・機器開発事業	その他事業	
光学ミラー・部品類	118,812	－	－	118,812
ライフサイエンス汎用機類	－	5,520	－	5,520
機器開発	－	876	－	876
ＴＤＳ	－	－	－	－
その他	595	－	32,204	32,799
顧客との契約から生じる収益	119,407	6,397	32,204	158,009
外部顧客への売上高	119,407	6,397	32,204	158,009